

2011年4月1日 広田撮影



2011年4月1日 広田撮影



盛地区  
2011年4月1日 広田撮影



盛地区(被災地最上流)  
2011年4月1日 広田撮影



### タイプ3: 沿岸集落被災・機能維持

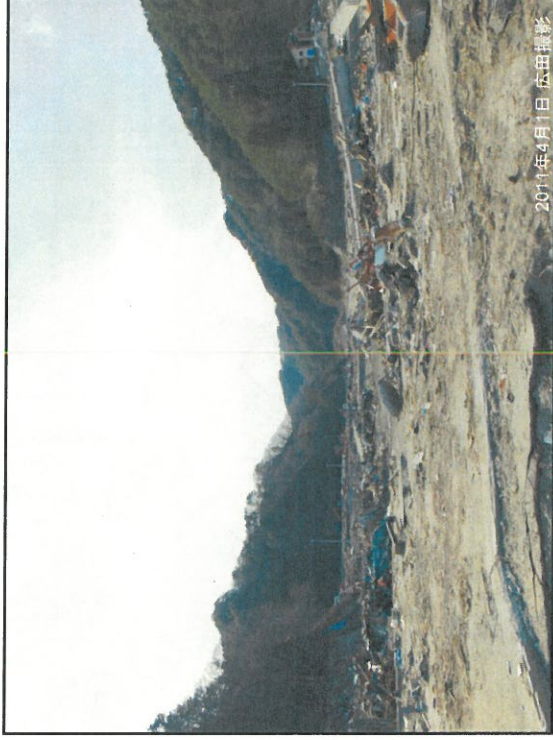
#### 田野畑村島越

沿岸のごく狭い湾に集落が立地。そこを津波が襲い、被災。集落が海に直接面するためか、津波の破壊力は南部の湾内集落より明らかに大きい。村役場、病院、学校、体育館等の公共施設はすべて高台にあって無事。

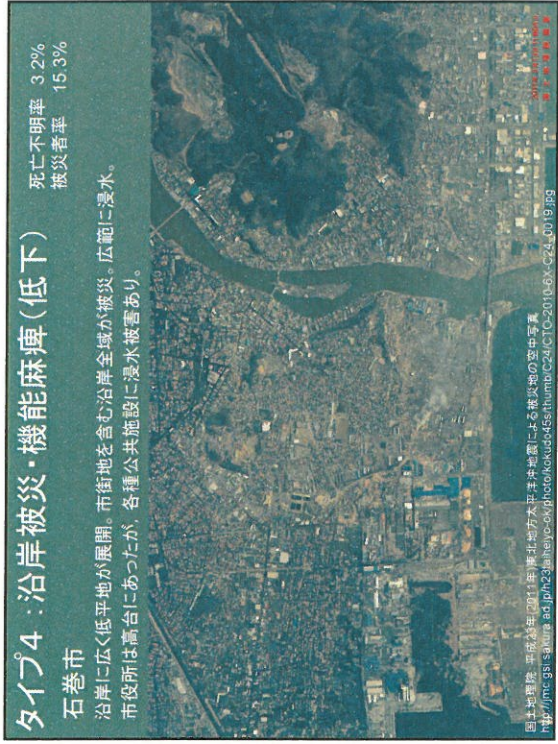
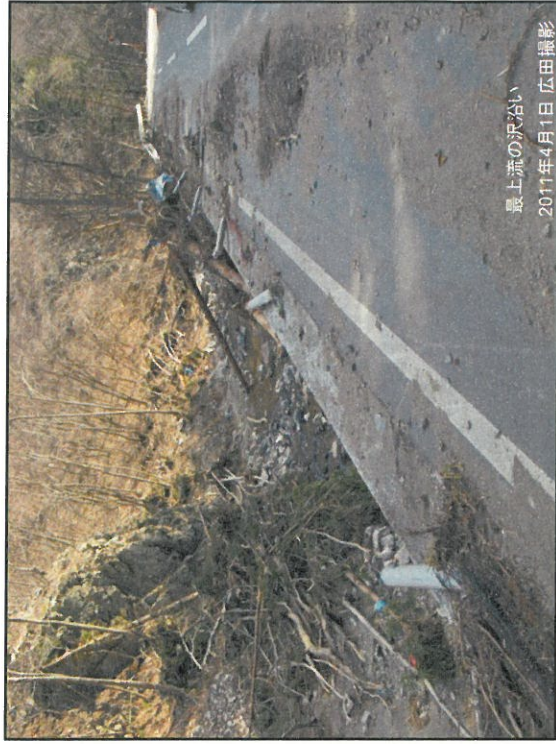
死亡不明率 1.0%  
被災者率 12.5%



28









### タイプ5：沿岸被災・機能低下

山元町

死亡不明率 3.3%  
被災者率 23.9%

沿岸に広く集落・水田が分布し、その全域が被災、広範な浸水。市役所は高台にあったが、各種公共施設に浸水被害あり。



### 3. 被災集落の分類

タイプA：高所において被害小

明治・昭和の津波で高所移転

タイプB：沿岸において被害大

明治・昭和の津波以後、低地が宅地化、防潮堤で防御

タイプC：高所・沿岸両方において沿岸のみ被害

明治・昭和の津波以後、高所移転と低地宅地化

タイプD：沿岸において人的被害なし

高所に避難場所確保、避難路整備、避難訓練の徹底

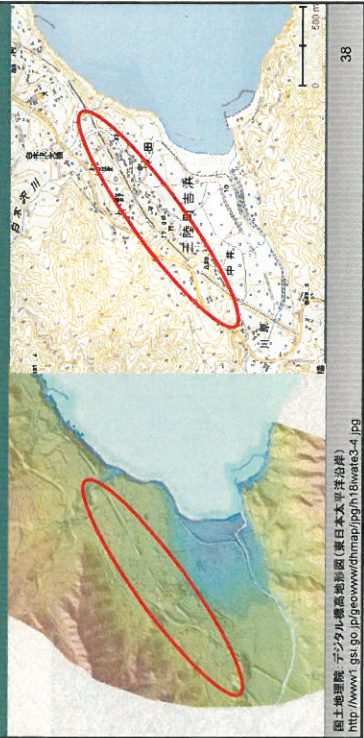
37

ローコストで被災  
被害

### タイプA：高所において被害小

大船渡市三陸町吉浜

明治・昭和の津波で高所移転、低地に下りず



国土院提供。デジタル標高地形図(東日本大震災分県)  
<http://www1.gsi.go.jp/geowww/dtmmap/jpg/h18wa03-4.jpg>

38

### タイプB：沿岸において被害大

大船渡市三陸町越喜来

明治・昭和の津波以降、低地が宅地化

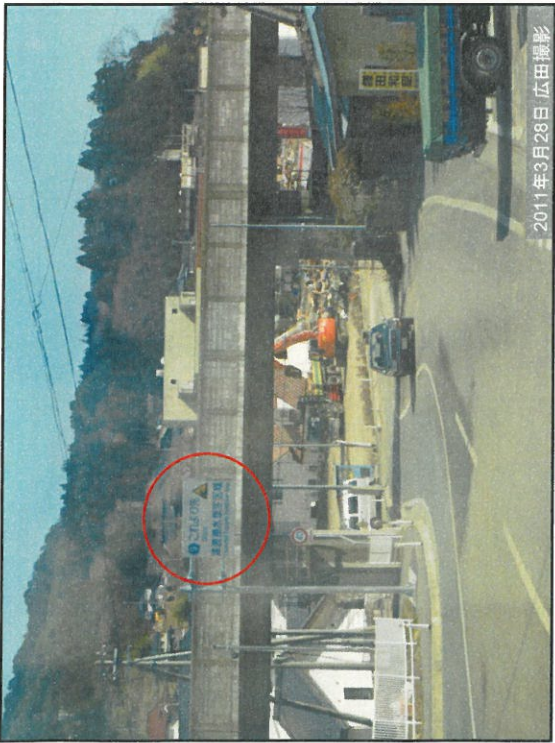
三陸鉄道の高架下まで津波



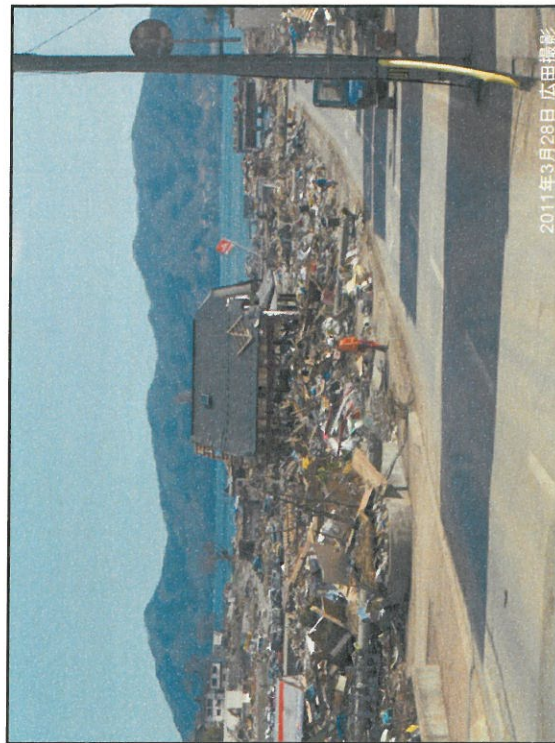
国土院提供。デジタル標高地形図(東日本大震災分県)  
<http://www1.gsi.go.jp/geowww/dtmmap/jpg/h18wa03-4.jpg>

39

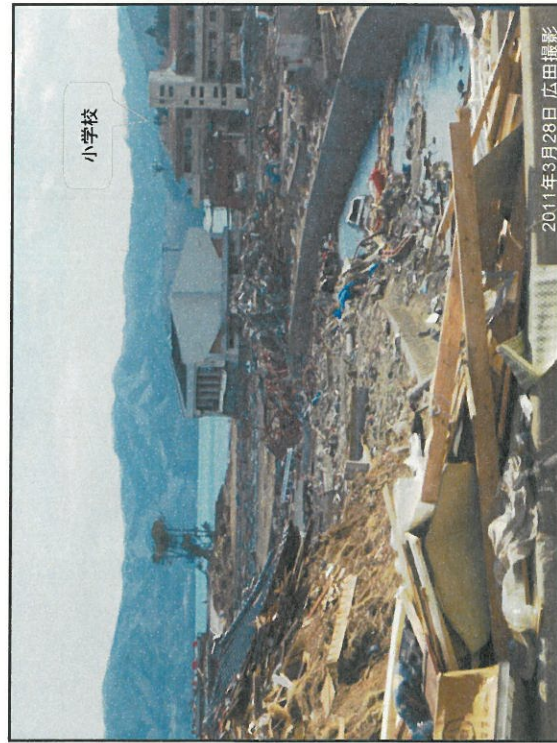




2011年3月28日 広田撮影



2011年3月28日 広田撮影

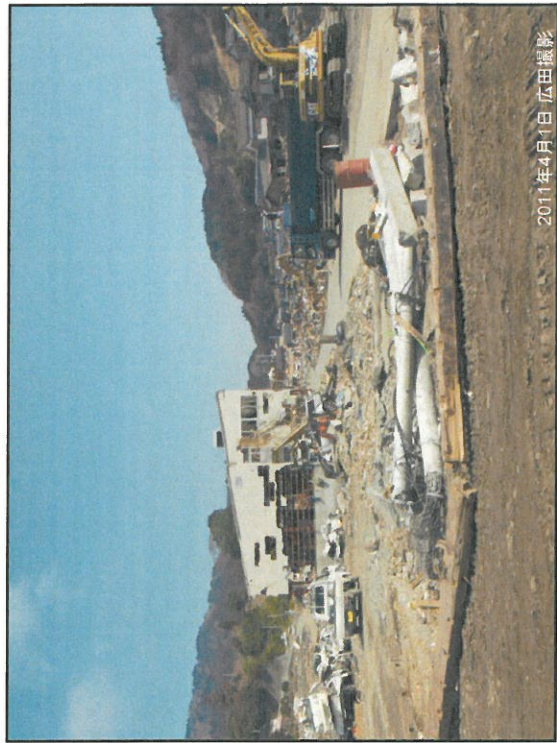
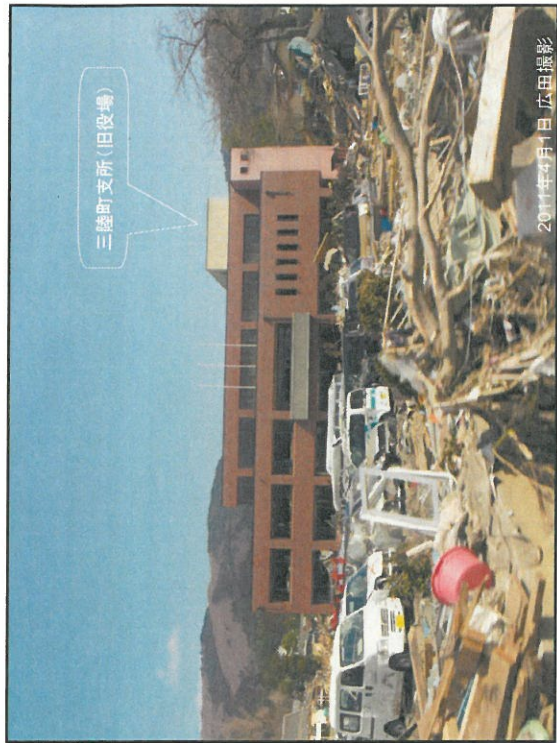


2011年3月28日 広田撮影



2011年3月28日 広田撮影



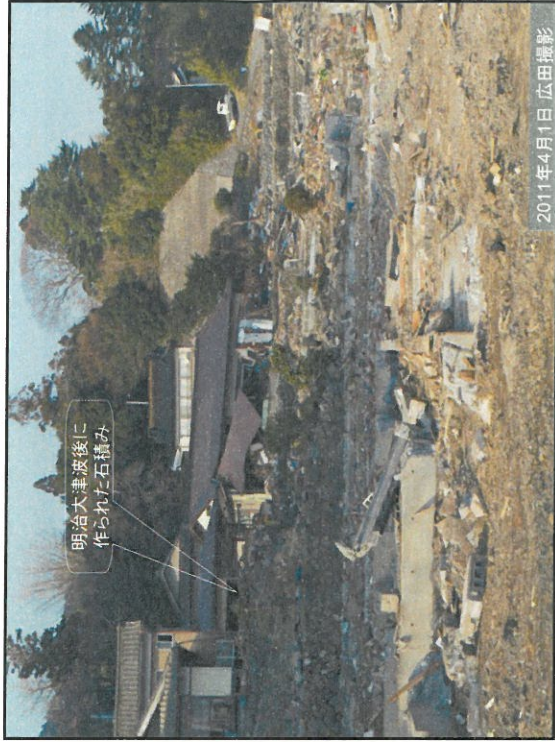




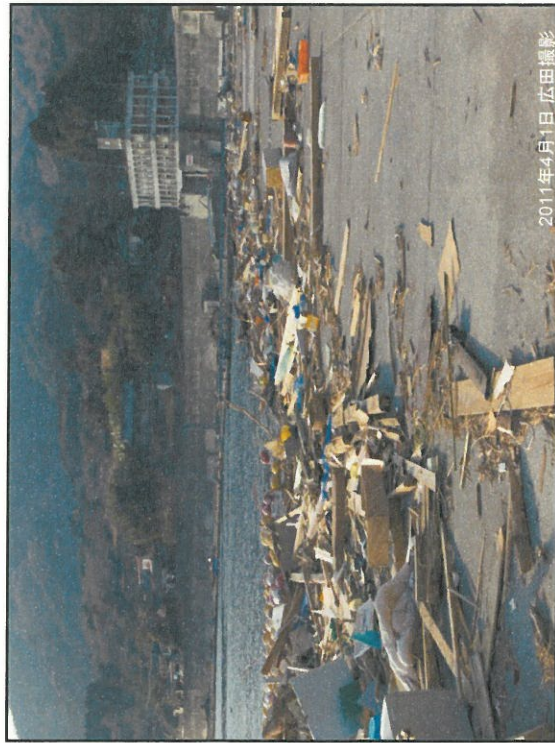


2011年4月1日 広田撮影

明治大津波後に  
作られた石積み

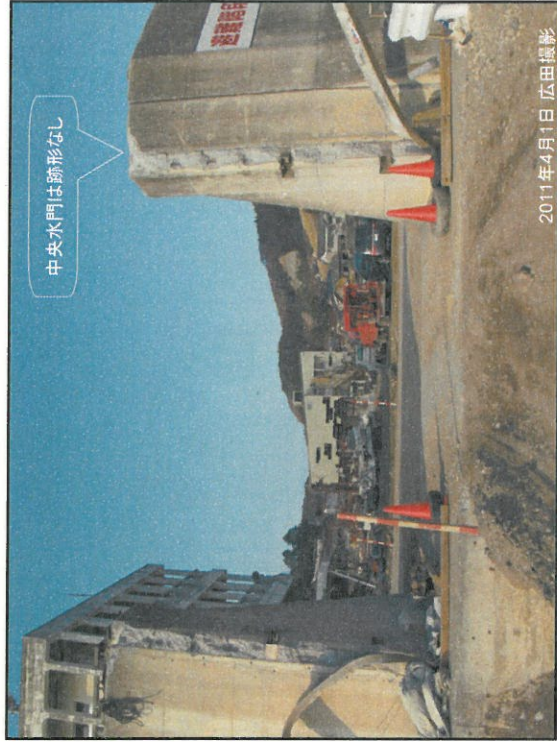


2011年4月1日 広田撮影



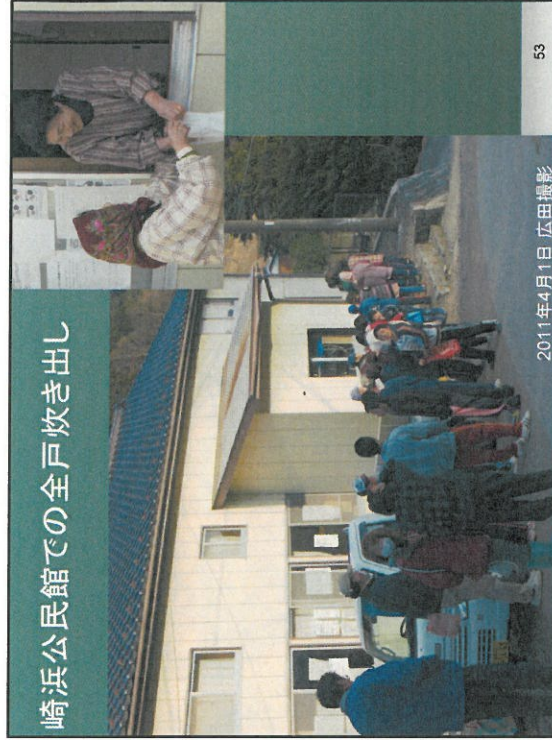
2011年4月1日 広田撮影

中央水門は跡形なし



2011年4月1日 広田撮影





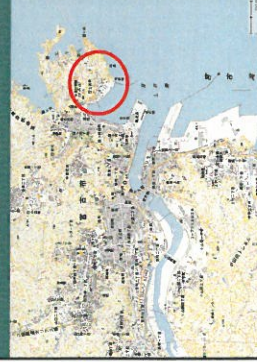
2011年4月1日 広田撮影

### タイプD: 沿岸にあって、人的被害小

#### 宮古市角力浜

- 堤防なし
- 高所に避難所、避難路整備
- 津波避難マップ作成、
- 町内会全世帯に配布 徹底

40世帯約110人、  
65歳以上の高齢者が4割。



### 復旧・復興に向けた課題

#### 1. 仮設住宅または疎開

- コミュニティ単位が望ましいとされるが、実際には、個人の希望や抽選
- 帰還までの間、コミュニティをどう維持するか

#### 2. 地域コミュニティ

- 従来から良好な関係があったコミュニティはその維持を
- そうではなかったコミュニティは、この機会に再生を。
- いずれにしても疎開中のコミュニケーションが重要。

疎開や避難生活



### 復旧・復興に向けた課題

- 3. 支援体制
  - 災害復興がバランスの必要性
  - 協働に慣れない行政
  - NPOや学会がいかにサポートするか
  - 学会間の協働も必要

56

### 復旧・復興に向けた課題

- 6. 復興ビジョン
  - 基本は地域(住民と市町村)であるべき
    - ・ トップダウンのビジョン策定は慎重に
    - ・ 一方で、生活再建(住民)と行政再建(市町村)のため、その余裕がない
  - 生活再建途上の住民の参加をどうするか？
    - ・ 疎開先がバラバラのコミュニティの意志をどう集約し反映させるか？
    - ・ ビジョンづくりはある程度の時間をかけて
  - 行政職員の不足をどうするか？
    - ・ 他の自治体、職員OB、臨時雇用など
  - 住民や市町村の課題対応能力に大きな違いあり
    - ・ 外部の人的支援が不可欠(国・県、企業、NPO、研究者等)

56

### 復旧・復興に向けた課題

- 4. 住宅の再建(住居の確保)
  - 高所移転が低地再建か
  - ハード対策の限界、ソフト対策の重要性
  - 丁寧な住民の合意形成プロセスが必要
- 5. 生活の再建(仕事の確保)
  - 緊急対策：瓦礫撤去、海底掃除、  
(復興内職、農林漁業連帯出稼ぎ等)
  - 復旧対策：復旧土木事業と関連業務(事務、食事提供等)
  - 復興対策：漁業の再興が鍵、臨時措置としての共同化

57

被災地への支援  
（このまま継続）  
↑  
被災地に！

せり

土木作業

、海女作業の再開

船舶作業の再開

、特に働く場を確保する

元地等